

平成22年度 会計別予算

(単位：千円)

	平成22年度	平成21年度	増減	
			金額	率(%)
一般会計	23,446,000	22,077,000	1,369,000	6.2
特別会計	14,734,432	15,380,510	△ 646,078	△ 4.2
国民健康保険	7,457,451	8,116,618	△ 659,167	△ 8.1
老人保健医療	2,309	21,500	△ 19,191	△ 89.3
後期高齢者医療	1,404,673	1,308,989	95,684	7.3
介護保険	3,863,411	3,825,792	37,619	1.0
公共下水道	1,941,018	1,925,342	15,676	0.8
駐車場事業	65,570	67,269	△ 1,699	△ 2.5
受託水道事業	-	115,000	△ 115,000	皆減
総額	38,180,432	37,457,510	722,922	1.9

予算特別委員会審査結果

- ◆平成22年度泊江市一般会計予算  
【結果】賛成多数の可決
- ◆平成22年度泊江市一般会計予算に対する修正案  
【結果】賛成少数の否決
- ◆平成22年度泊江市国民健康保険特別会計予算  
【結果】賛成全員の可決
- ◆平成22年度泊江市老人保健医療特別会計予算  
【結果】賛成全員の可決
- ◆平成22年度泊江市介護保険特別会計予算  
【結果】賛成全員の可決
- ◆平成22年度泊江市公共下水道特別会計予算  
【結果】賛成全員の可決
- ◆平成22年度泊江市駐車場事業特別会計予算  
【結果】賛成全員の可決
- ◆平成22年度泊江市後期高齢者医療特別会計予算  
【結果】賛成全員の可決

一般会計予算に対する討論

(要旨)

(注) 3月26日の本会議において、石井功・小川克美の両議員から平成22年度一般会計予算に対して修正案が提出されました。修正内容は、歳出の7款商工費1項商工費の負担金、補助金及び交付金の「音楽と花火の祭典助成金」を1200万円減額し、その分を予備費に計上するものですが、賛成少数で否決されました。

景気の動向を見据え  
徹底した行財政  
改革を

賛成  
明政クラブ  
小川克美

昨年来からの景気後退は、市の財政面にも大きな影響を与え、市税は総じて減収となり、財源の不足分3億7000万円は相変わらず市債で補うなど、財政基盤の脆弱さが見受けられる。この状況下で40周年記念事業「音と光の祭典」2700万円が適切な支出か議論し、上乗せとなる寄付金900万円においても経済状況から厳しいと指摘した。また、矢野市長が泊江市内に限定したイベントならば、打ち上げ4000発、10万人の予定来場者の見直しを求め、大会中止前の予算額に警備費を上乗せした1500万円を安全面に十分配慮した大会開催を行うべきと修正案を提出した。

市民生活を応援し  
元気で魅力ある泊江へ  
前進させる予算

賛成  
日本共産党  
泊江市議団  
鈴木えつお

予算案は深刻な経済情勢の中、市民生活と中小業者を応援し元気で魅力ある泊江を進めるものになっている。中小業者への融資制度が抜本拡充され信用保証100%の融資制度が創設される。また孤独死ゼロを目指し24時間対応の「あんしん見守りサービス」がスタートする。さらには待機児ゼロを目指し認可保育園の増設計画の策定が進められ、安全・安心では、保育園初め公共施設の耐震化が促進され、小学校の耐震化率は100%となる。

予算執行は慎重に。  
我々は今後も厳しく  
市政運営を監視する

賛成  
公明党  
佐々木貴史

22年度予算には市長及び各部の意欲満々という姿勢が感じられなかった。市長公約の高齢者見守りシステムは鳴り物入りで打ち出されたが成果がなく今回のセンサー式は数年前から導入できた。結果論おくれさせた事業である。「音と光の祭典」は花火大会の復活ではなく40周年事業の一環であるとのこと。こまバスは改めて「公共施設無料循環バス」を提案したが難しいとの答弁。高齢者や障がい者、車いすの方が利用しやすいように①こまバスに介助員の同乗を②こまバスと福祉バスC号にAED搭載を要望。中学校給食の異物混入に対して公明党は文科省や都教委への問い合わせや相談をし、生徒の「食の安全」確保のためにどこよりも真剣に取り組んできた。給食センターを市内に設置し公設民営を訴えてきたところ、あり方検討委員会での検討すること。市長の政治姿勢には疑義を感じるところも多々あるが、今年度予算には公明党の要望も多く反映されている。これらを総合的に判断し、修正案に反対し原案に賛成する。

国の施策の円滑な遂行  
を願い、苦渋の選択  
ながら原案に賛成

賛成  
民主党・行革の会  
河西かず

最初に指摘するのは、臨時財政対策債の多さである。臨時財政は借金であるという認識を持たなければ、財政改革は進まないことを強く指摘する。職員の定数467人の中に占める保育園職員の数が多過ぎる。さらなる定員削減に対応できる体制づくりのためにも保育園の民営化を進めるべきである。中学校給食は、三鷹給食1社に頼らざるを得ない現状に危機感を持ってほしい。喫食数と補償費の件は契約を見直すべき。周年行事は一定の理解を示すものの、市民の間で賛否両論がある花火大会は、今年限りを前提にし、市民の納得を得られるよう花火への支出は抑えるべき。観光協会を主体とする募金活動の実施を提案する。商工会は花火大会を活性化の起爆財とすべく努力してほしい。市には今後計画行政の視点に立った行政改革を要望する。子ども手当等を除き総額を今年度以下に抑えた点と、新政権の施策が滞りなく遂行されることを願って苦渋の選択ながら修正案に反対し、本予算案に賛成とする。

市民サービスより  
優先された市長等の  
給料増額に異議あり

反対  
生活者ネットワーク・  
社民党  
吉野芳子

一般会計の歳入は市税が約50%を占め前年度比約1億4000万円減で1.3%減となった。今後も高齢化による社会保障費の増大と景気の低迷で市税の増収は期待できない。本予算案では市長18%等の自主的な給料削減をやめると決定し約400万円の歳出増となった。深刻な市民ニーズの山積みそのまま置き去りとは遺憾だ。花火大会総事業費は3700万円、補助金として一般会計からの2700万円は財政の圧迫だ。市制40周年行事の花火大会は天候に左右される不安要素をはらみ、多くの市民が祝うというコンセプトにふさわしくないと判断する。「高齢者配食サービス」の要支援者への拡充」とは欺瞞だ。配食は介護度にかかわらず必要な人に提供すべきで当初は要支援者にも実施していたが抑制した事実を隠すとは市民を愚弄している。基本計画策定過程でも市民参加が不十分だったと真摯に受けとめよ。硬直した財政の再建と市民ニーズの実現に渾身の力を注ぎ厳しいかじ取りが必要だと指摘し修正案賛成、原案反対とする。